



スペックや画質はもちろん  
生中継で求められる  
操作性の高さを決め手に  
BVM-HX310 を選択

株式会社テレテック 様は、改修中の4Kトレーラー中継車 107号車へのVE卓マスターモニターとして31型4K液晶マスターモニターBVM-HX310を新たに導入され、2019年5月より運用を開始されています。同社 技術本部 技術部 技術課 専門職課長 平井昭弘 様に導入の経緯や目的について伺いました。



平井昭弘 様

## 本格的な4K制作に対応する2台目の中継車

当社では、大型中継車を4台、小型中継車を1台、報道用SNG車を1台保有し運用をしており、現在、旗艦シップであるトレーラー型中継車「107号車」を多様化する4K中継に対応すべく改修を行っています。107号中継車は、以前からマルチフォーマットスイッチャーMVS-7000Xを搭載し、3G-SDIに対応するシステム構成を採用していたため、4K制作にも簡易に対応していました。しかし、今回はスイッチャーをマルチフォーマットスイッチャーXVS-9000に、カメラをマルチフォーマットポータブルカメラHDC-4300などに入れ換え、HDと変わらない本格的な4K制作ができるようにするための改修・更新を行っています。当社では、やや小ぶりの大型中継車「108号中継車」が既に4K対応となっていますので、2台目の本格的な4K中継車になります。

## 海外クライアントからのニーズを受け4K化

この107号中継車は、ゴルフ中継など、大型のスポーツ中継におけるセンター中継車の役割をメインにこなしています。今回の改修は、日本で今後、数多くの大規模な国際的スポーツイベントが控える中で、海外のお客様などからの「4K」「HDR」「広大な制作空間」といった、中継車に対するニーズに応えていくためのリニューアルです。当社では、制作技術部門以外に、中継車のSI（システムインテグレート）部門を持ち、設計からシステムアップまでをワンストップで行っています。自社で用いる中継車だけでなく、社外の放送局様などが使う中継車のSIも行っています。社内にSI部門を持つフットワークの軽さから、中継車は都度新造して更新するのではなく、需要の変化に応じて、頻りに改修などを行いながら運用しています。同じ中継車を10年間そのまま使うようなことはありません。今回の改修も、その1つになります。



車内で設置・調整中のBVM-HX310

## 画質に加え生中継での使い勝手で BVM-HX310 を選択

今回、VE 用マスターモニターの選定にあたっては、ソニーを含め 3 機種の実際比較して検討をしました。今後 4K HDR 制作においては HLG での制作が増加することから、「4K HDR 対応」「制限のない 1000nits のハイライト」「100 万対 1 の高いコントラスト」などが選定条件でした。それらの条件を満たす製品の中から BVM-HX310 を選ぶに至った理由は、色再現などはもとより、メニュー操作などの使いやすさ、そして、グレアパネルの採用でした。

比較した 3 機種のうち他社の 2 機種はノングレアパネルでしたが、中継車内の監視用としては、よりクリアな発色が得られるグレアパネルが最適でした。ノングレアと違って、透明性がよく非常にきれいに見えます。加えて、生放送などを扱う中継車では、ストレスなく素早く操作できることが重要です。メニューなどに入らず各機能をダイレクトに操作できる使いやすさ、他の中継車のマスターモニターと共通した操作性という観点で BVM-HX310 を選びました。

今回の改修では、23.98 や 29.97 などのフレームレートへの対応の都合から、クアッドリンクの 3G-SDI でシステムを構成しています。しかし、当社では改修などを行いながら使っていきますので、12G-SDI にも対応していることも、将来性の面で良いと思います。

## 長寿命・充実した機能を生かして幅広い活用を

BVM-HX310 は 4K 制作におけるマスターモニターとして導入しました。しかし、4K 制作はまだ多くなく、改修完了後も当面は 9 割近くが HD 運用になると思います。BVM-HX310 は寿命を気にせず使える液晶パネルであることや、4K パネルを生かした HD の 4 分割表示機能もあります。加えて、車内の設置場所も便利な場所にしましたので、HD 制作時にも活用できると思います。

先行して 4K 化した 108 号中継車では、すでに 4K で花火大会の中継や、4K HDR (収録)・HD SDR (生放送) のプロレス中継の制作なども行っています。107 号中継車が竣工した後は、4K や HDR による、さらに大きな案件も積極的に獲得していきたいと考えています。

今後、制作を重ねる中で、ノウハウを蓄積しながら、BVM-HX310 の 3D LUT など、充実した機能をフルに活用していきたいと思っています。

## これまでもソニー、これからもソニー

液晶や有機 EL の時代を迎えてから、当社の中継車におけるマスターモニターは、17 型有機 EL マスターモニター BVM-F170 に始まり、ソニーが中心となりました。4K マスターモニターとしても、すでに 30 型 4K 有機 EL マスターモニター BVM-X300 を 2 台保有し、主に 4K 制作における 108 号中継車のマスターモニターとして使っています。また、最近更新を行った中継車の VE 卓には全て、17 型有機 EL マスターモニター BVM-E171 を埋め込んでいます。

今まで使ってきて、ソニーのモニターは製品の信頼性が高く、サポートもしっかりしていると感じています。

今後の導入においても、ソニーのモニターをマスターモニターの第一候補として考えていくと思います。

取材日：2019 年 4 月下旬

株式会社テレテック <http://www.teletech.co.jp/>



テレビ番組の中継や、スタジオ制作におけるサービスを中心に提供する制作技術会社として 1975 年に創業。地上波・BS テレビ放送局を中心に、スポーツやコンサート・ライブ中継、バラエティー番組のスタジオ技術、報道中継、ENG 制作、照明技術などさまざまな分野で活躍。制作技術会社としては特徴的な、システムインテグレーション部門も擁し、中継車の設計や架装から、映像コンテンツを活用するオリジナルシステム開発、Web アプリケーション開発まで幅広く手掛ける。

放送・業務用モニターの商品情報やお客さま事例をご覧ください。

[sony.jp/pro-monitor/](http://sony.jp/pro-monitor/)

ソニービジネスソリューション株式会社 / 〒108-0075 東京都港区港南 1-7-1

購入に関するお問い合わせは

業務用購入相談窓口 フリーダイヤル ☎ 0120-580-730

●受付時間 9:00 ~ 18:00 (土・日・祝日、および弊社休業日は除く)

2019 年 6 月現在